

(様式5)

令和7年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立弘済みらい園（児童養護施設）・大阪市立弘済のぞみ園（児童心理治療施設）
施設所管課・担当	こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ
条例上の設置目的	児童福祉法第41条に基づき児童養護施設を設置するもの（みらい園） 児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの（のぞみ園）
業務の概要	児童養護施設の管理運営及び児童心理治療施設の管理運営
成果指標	①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率
目標	①100% ②100%
指定管理者名	（社福）みおつくし福祉会
指定期間	令和4年4月1日～令和12年3月31日（8年間）
評価対象期間	令和7年度分

2 管理運営の成果・実績

成果指標	①	②
数値目標	100%	100%
年度実績	100%	100%
達成率	100%	100%

利用状況（各年度3月1日時点）

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	73	76	3
稼働率	91.3%	95.0%	3.8%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	612,271,078	580,047,176	2,536,078	入所児童数の増
	計画	609,735,000	575,325,000		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 （自主事業収入）	実績	35,368,683	32,886,935	35,368,683	委託料収入及び寄付金収益
	計画	0	0		
合計	実績	647,639,761	612,934,111	37,904,761	入所児童数の増
	計画	609,735,000	575,325,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	438,034,157	410,015,188	438,034,157	
	計画				
管理運営費	実績	145,722,413	139,627,547	145,722,413	
	計画				
その他事業費 （自主事業支出）	実績	0	0	0	
	計画				
合計	実績	583,756,570	549,642,735	583,756,570	
	計画	0	0		

4 管理運営状況の評価

(1) 成果指標の目標達成状況

評価項目	市の評価	特記事項
①	B	自立支援担当職員を配置し適切に対応されたことにより、目標を達成している。
②	B	苦情解決第三者委員会に諮る事例は4件発生したが全件適切に対応されている。

(2) 市費の縮減

市費縮減に係る取組状況	市の評価	特記事項
児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行料を支出しており、市費縮減については不可能	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	市の評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービス向上		
施設の管理運営	A	日常的な点検整備を欠かさず、入所者の安全に配慮しており、予防保全にも十分取り組んでいる。また、施設の小規模化に向けて、職員配置を見直し、リーダー育成の強化を図っている。 措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点も評価できる。
施設の維持管理		
職員の配置状況		
安全管理		
市民サービスの向上	A	本施設は児童養護施設と児童心理治療施設の合築施設であり、単独設置施設では対応が困難な児童を積極的に受け入れるなど利用促進に取り組んでいる。 また、施設内活動において、入所児童の満足度を高めるよう工夫を凝らした活動を展開している。
利用者満足度調査		
サービス向上策の実施		
利用促進策の実施		
事業計画の実施状況	B	児童入所施設運営として適切かつ良好である。
事業の実施状況		
施設の有効活用	B	同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップや新たな情報確保に努めるとともに、地域子ども会への参画など果たすべき役割を担っている。
地域との連携		
他施設との連携		
社会的責任・法令遵守	B	適切かつ良好である。
勤務労働条件の確保		
個人情報保護対策		
環境への配慮		
就職困難者の雇用		

5 外部専門家意見

・成果指標（現況把握率・苦情解決率）はいずれも達成率100%であり、実地調査も「×」評価0件で、基準的な運営水準は満たされている。心理療法職員によるトラウマケアや性教育プログラム、権利擁護のためのアドボケイト運用など専門的支援体制も充実している。一方、職員の負担増加とリービングケアの充実は、施設自身が課題として認識している事項であり、次年度評価に向けた重点確認事項として付記することが望ましい。 ・被虐待児入所の増加や家庭での養育が非常に難しい家族のこどもたちを受け入れて、生活・心理・教育・医療のサービスを総合的に提供する施設として、独特の施設養育を展開して来られた実績が評価できる。社会的養育関係の国の予算は、近年充実されてきており、措置費単価の改定等により経営的に安定している施設が散見される。その分、社会福祉充実残高を活用して、社会的養育体制の将来構想にある「地域分散化」に備えて資金を確保する施設も増えてきている。指定管理施設ということだが、ぜひ将来構想等のVisionを固められて、今後この事業がどうあるべきかを行政と事業者と共有して頂ければと思う。
--

6 総合評価

評価項目	評価	所見
成果指標の目標達成	B	目標達成している。
市費の縮減	B	児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上	A	基準的な運営水準は満たされているだけでなく、専門的支援体制も充実している。今後は、職員の負担軽減とリーピングケアの充実に向けた取り組みに期待したい。
施設の管理運営		
市民サービスの向上		
事業計画		
施設の有効活用		
社会的責任・市の施策との整合	B	適切かつ良好である。
総合評価	B	